

⑤治療を進める過程で、治療者は、患者のどの症状を改善しようと努めるかを判断しなくてはならない。

⑥患者が、自分を健康と感ずるまでには、自分が失った機能や新たに課せられた制限を受け入れて、被害者意識を払拭することが必要である。リハビリプロセスの最終段階においては、生きていることに価値があると感じられる事が必要である。

ロ. 高次脳機能に与える影響

国内では、東京医科歯科大学難治疾患研究所において、高次脳機能障害者通所プログラムを実施している橋本は、ラスク研究所のプログラムを踏まえ、我が国における高次脳機能障害者が、社会的要因などからどのような影響を受けているのかについて、図2のように表している。橋本は、「各高次脳機能以前の問題として、神経疲労(易疲労性)、発動性の低下(意欲低下)、脱抑制などが存在する場合、これらの解決なくして各種機能障害への対策は立てられない」ことから、高次脳機能障害者を支援するには、その利用者を、医学的・身体的な側面のみならず、受障原因に結びつく要因や、現在の社会・地域・家族的におかれている状況、受障時の状況等も含め、全人格的に捉えることが必要であり、それらを無視して支援することは、効果的な支援につながりにくいとしている(橋本,2005)³⁴⁾。

受障要因からの影響については、例えば、a)身体面の麻痺が疲労に与える影響、b)交通事故や労災等、受障の直接の原因となった事故等の補償問題が意欲や感情統制に与える影響、c)家族の障害理解が本人の障害受容に与える影響、等をあげることができる。つまり利用者を、障害からだけではなく、受障前後のエピソードも含め、全人的に捉える事が必要である。

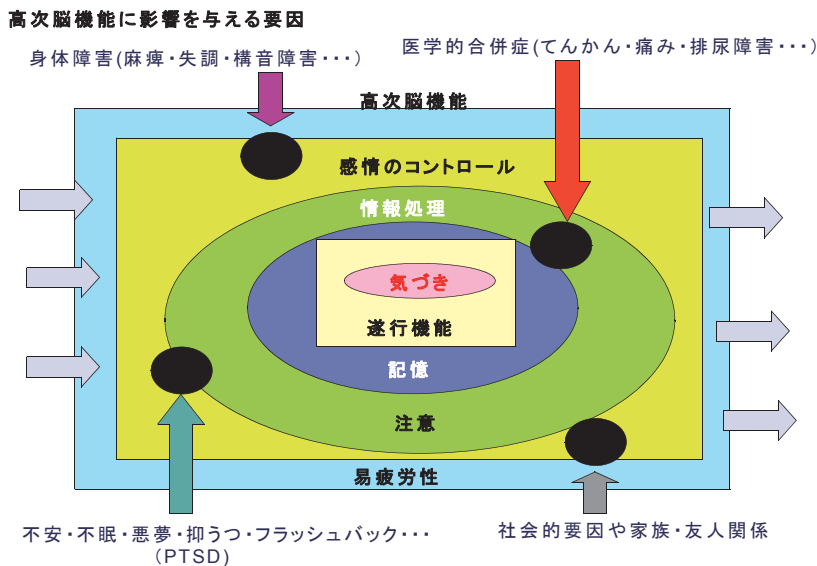


図2 高次脳機能に影響を与える要因

出典:平成17年度 職業リハビリテーション実践セミナーより